



曹  
洞  
宗  
經  
典

蟠龍山 芳全寺

曹洞宗經典

蟠龍山 芳全寺



久下田大仏 [南無阿弥陀仏]

令和5年5月2日撮影

# 目次

開經偈	6
三歸礼文	7
四弘誓願文	9
摩訶般若波羅蜜多心經	10
大悲心陀羅尼	12
舍利礼文	15
妙法蓮華經觀世音菩薩普門品偈	16
妙法蓮華經如來壽量品偈	20
參同契	23

普回向	第五章	第四章	第三章	第二章	第一章	修証義	宝鏡三昧
.....	行事報恩	發願利生	受戒入位	懺悔滅罪	總序	.....	.....
51	46	41	36	30	26	26	26

# 開經偈 かいきょうげ

無上甚深微妙法 むじょうじんじんみみょうほう

我今見聞得受持 がこんけんもんとくじゆじ

百千万劫難遭遇 ひやくせんまんごうなんそうぐう

願解如来真實義 がんげによらいしんじつぎ

無上甚深微妙の法は、

百千万劫にも 遭い遇うこと難し、

我れ今見聞し 受持することを得たり、

願わくは 如来真實の義を解せん

# 三歸礼文 さんきらいもん

自歸依仏 じきえぶつ

当願衆生 とうがんしゅじょう

体解大道 たいげだいどう

発無上意 ほつむじょうい

自歸依法 じきえほう

当願衆生 とうがんしゅじょう

深入経蔵 じんにゆうきやうぞう

智慧如海 ちえにょかい

自歸依僧 じきえそう

当願衆生 とうがんしゅじょう

統理大衆 とうりだいしゅ

一切無礙 いっさいむげ

自ら仏に歸依し奉る。

当に願わくは衆生と共に、

大道を体解して、無上意を發さん。

自ら法に帰依し奉る。

当に願わくは衆生と共に、

深く経蔵きょうぞうに入りて、智慧海ちえうみの如くならん。

自ら僧に帰依し奉る。

当に願わくは衆生と共に、

大衆だいしゅうを統理とうりして、一切無礙むげならん。



# 四弘誓願文しぐせいがんもん

衆生無辺誓願度しゅじょうむへんせいがんど

法門無量誓願学ほうもんむりょうせいがんがく

煩惱無尽誓願断ぼんのうむじんせいがんだん

仏道無上誓願成ぶつどうむじょうせいがんじょう

衆生は無辺なれども 誓って度せんことを願う

煩惱は無数なれども 誓って断ぜんことを願う

法門は無尽なれども 誓って知らんことを願う

佛道は無上なれども 誓って成せんことを願う

摩訶般若波羅蜜多心經

觀自在菩薩。行深般若波羅蜜多時。照見五蘊皆空。

度一切苦厄。舍利子。色不異空。空不異色。色即是

空。空即是色。受想行識。亦復如是。舍利子。是諸

法空相。不生不滅。不垢不淨。不增不減。是故空

中。無色無受想行識。無眼耳鼻舌身意。無色声香味

觸法。無眼界乃至無意識界。無無明亦無無明尽。乃

至し無む老ろう死し。亦やく無む老ろう死し尽じん。無む苦く集じ滅めつ道どう。無む智ち亦やく無む得とく。

以い無む所しよ得とく故こ。菩ぼ提だい薩さつ埵た。依え般はん若にや波は羅ら蜜み多た故こ。心しん無む罣けい

礙げい。無む罣けい礙げい故こ。無む有う恐く怖ふ。遠おん離り一いつ切さい顛てん倒どう夢む想そう。究く竟ぎよう

涅ね槃はん。三さん世ぜ諸しよ仏ぶつ。依え般はん若にや波は羅ら蜜み多た故こ。得とく阿あ耨のく多た羅ら三

藐みやく三さん菩ぼ提だい。故こ知ち般はん若にや波は羅ら蜜み多た。是ぜ大だい神じん呪しゆ。是ぜ大だい明み呪しゆ。

是ぜ無む上じよう呪しゆ。是ぜ無む等とう等しゆ呪しゆ。能のう除じよ一いつ切さい苦く。真しん實じつ不ふ虛こ。故こ

說せつ般はん若にや波は羅ら蜜み多た呪しゆ。即そく說せつ呪しゆ曰わつ。羯ぎや諦てい羯ぎや諦てい。波は羅ら

羯ぎや諦てい。波は羅ら僧そう羯ぎや諦てい。菩ぼ提じ薩そ婆わ訶か。般はん若にや心しん經ぎよう

# 大悲心陀羅尼

南無喝囉怛那。哆羅夜耶。南無阿唎耶。婆盧羯帝爍

鉗囉耶。菩提薩埵婆耶。摩訶薩埵婆耶。摩訶迦盧尼

迦耶。唵。薩皤囉罰曳數怛那寫。南無悉吉利埵伊

蒙。阿唎耶。婆盧吉帝。室仏囉。楞駄婆。南無那

囉。謹墀醯唎。摩訶皤呼。沙吽薩婆。阿他豆輸朋。

阿逝孕。薩婆薩呼。那摩婆伽。摩罰特豆。怛姪他。

唵。阿婆盧醯。盧迦帝。迦羅帝。夷醯唎摩訶。菩提

薩埵。薩婆薩婆。摩囉摩囉。摩醯摩醯。唎駄孕俱盧。  
 俱盧。羯蒙度盧度盧。罰闍耶帝。摩訶罰闍耶帝。陀  
 囉陀囉。地利尼。室仏囉耶。遮囉遮囉。摩摩罰摩  
 囉。穆帝隸。伊醯伊醯。室那室那。阿囉參仏囉舍  
 利。罰沙罰參。仏囉舍耶。呼盧呼盧。摩囉呼盧呼  
 盧。醯利娑囉娑囉。悉利悉利。蘇嚧蘇嚧。菩提夜。  
 菩提夜。菩駄夜菩駄夜。彌帝唎夜。那囉謹墀。地利  
 瑟尼那。婆夜摩那。娑婆訶。悉陀夜。娑婆訶。摩訶  
 悉陀夜。娑婆訶。悉陀喩藝。室幡囉夜。娑婆訶。那

囉謹墀らきんじ。娑婆訶そもこ。摩囉那囉娑婆訶もららのら。悉囉僧阿穆佉しらすのおもぎや

耶や。娑婆訶そもこ。娑婆摩訶悉陀夜そほもこしどや。娑婆訶そもこ。者吉囉阿悉しやきら

陀夜どや。娑婆訶そもこ。波陀摩羯悉陀夜ほどもぎやしどや。娑婆訶そもこ。那囉謹墀のらきんじ

幡伽囉耶はぎやらや。娑婆訶そもこ。摩婆唎勝羯囉耶娑婆訶もほりしんぎやらや。

南無喝囉怛那哆羅耶夜なむからたんのうとらやや。南無阿唎耶なむおりや。婆盧吉帝ぼりよきち。爍し

幡囉耶ふらや。娑婆訶そもこ。悉殿都漫哆囉してどもどら。跋陀耶ぼどや。娑婆訶そもこ。

舍利禮文

一心頂礼

万徳円満

釈迦如来

真身舍利

本地法身

法界塔婆

我等礼敬

為我現身

入我我入

仏加持故

我証菩提

以仏神力

利益衆生

発菩提心

修菩薩行

同入円寂

平等大智

今將頂礼

妙法蓮華經觀世音菩薩普門品偈

世尊妙相具

我今重問彼

仏子何因縁

名為觀世音

具足妙相尊

偈答無尽意

汝聽觀音行

善応諸方所

弘誓深如海

歴劫不思議

侍多千億仏

発大清浄願

我為汝略説

聞名及見身

心念不空過

能滅諸有苦

假使興害意

推落大火坑

念彼觀音力

火坑變成池

或漂流巨海

龍魚諸鬼難

念彼觀音力

波浪不能没

或在須弥峰

為人所推墮

念彼觀音力

如日虚空住



或わく被ひ惡あく人にん逐ちく

墮だ落らく金こん剛ごう山せん

念ねん彼び觀くわん音のん力りき

不ふ能のう損そん一いち毛もう

或わく值ち怨おん賊ぞく繞によう

各かく執しゅう刀とう加か害がい

念ねん彼び觀くわん音のん力りき

咸げん即そく起き慈じ心しん

或わく遭そう王おう難なん苦く

臨りん刑ぎよう欲よく壽じゅう終しゅう

念ねん彼び觀くわん音のん力りき

刀とう尋じん段だん段だん壞え

或わく囚しゅう禁うきん枷か鎖さ

手しゅう足そく被ひ杻ちゅう械かい

念ねん彼び觀くわん音のん力りき

釈しゃく然ねん得とく解げ脫だつ

呪しゅう詛そ諸しよ毒どく藥やく

所しよ欲よく害がい身しん者しゃ

念ねん彼び觀くわん音のん力りき

還げん著じやく於お本ほん人にん

或わく遇ぐう惡あく羅ら刹せつ

毒どく龍りゅう諸しよ鬼き等とう

念ねん彼び觀くわん音のん力りき

時じ悉しつ不ふ敢かん害がい

若にやく惡あく獸じゅう困うい繞によう

利り牙げ爪そう可か怖ふ

念ねん彼び觀くわん音のん力りき

疾しつ走そう無む辺へん方ぼう

蚺がん蛇じや及ぎ蝮ゆう蠍ぶつ蚺かつ

氣け毒どく煙えん火か然ねん

念ねん彼び觀くわん音のん力りき

尋じん声しやう自じ回え去こ

雲うん雷らい鼓いく掣せい電でん

降ごう雹ばく澍じゅう大だい雨う

念ねん彼び觀くわん音のん力りき

應おう時じ得とく消しやう散さん

衆生被<sub>レ</sub>困厄しゅーじょうひーこんやく

無量苦逼身むーりょうくーひつしん

觀音妙智力かんのんみょうちーりき

能救世間苦のうぐーせーけんくー

具足神通力ぐーそくじんずうりき

廣修智方便こうしゅーちーほうべん

十方諸国土じつぱうしよーこくどー

無刹不現身むーせつふーげんしん

種種諸惡趣しゅーじゅーしよーあくしゅー

地獄鬼畜生じーごくきーちくしよー

生老病死苦しやうろうびよーうしーくー

以漸悉令滅いーぜんしつりよーうめつ

真觀清淨觀しんかんしよーうじよーうかん

廣大智慧觀こうだいちーえーかん

悲觀及慈觀ひーかんぎゅうじーかん

常願常瞻仰じやうがんじよーうせんごう

無垢清淨光むーくーしよーうじよーうこう

慧日破諸闇えーにちほーしよーあん

能伏災風火のうぶくさいふうかー

普明照世間ふーみよーうしよーうせーけん

悲體戒雷震ひーたいかいらいしん

慈意妙大雲じーいーみよーうだいうん

澍甘露法雨じゅーかんろーほううー

滅除煩惱焰めつじよーぼんのうえん

諍訟經官処じよーうしよーうきよーうかんしよー

怖畏軍陣中ふーいーぐんじんちゆう

念彼觀音力ねんぴーかんのんりき

衆怨悉退散しゅーおんしつたいさん

妙音觀世音みよーうおんかんぜーおん

梵音海潮音ぼんのんかいちよーうおん

勝彼世間音しやうひーせーけんのん

是故須常念ぜーこーしゅーじよーうねん

念念勿生疑ねんねんもつしよーうぎー

觀世音淨聖かんぜーおんじよーうしよーう

於苦惱死厄おーくーのうしーやく

能為作依怙のういーさーえーこー

具一切功德。慈眼視衆生。福聚海無量。是故心頂礼。

爾時。持地菩薩。即從座起。前白仏言。世尊。若有

衆生。聞是觀世音菩薩品。自在之業。普門示現。神

通力者。当知是人。功德不少。仏説是普門品時。衆

中八万四千衆生。皆發無等等。阿耨多羅三藐三菩提

心。

みようほうれんげきようによらいじゆりようほんげ  
妙法蓮華經如來壽量品偈

じーがーとくぶつらい  
自我得仏來

しよーきようしよーこうしゆー  
所經諸劫數

むーりようひやくせんまん  
無量百千萬

おくさいあーそうぎー  
億載阿僧祇

じようせつぽうきようけー  
常說法教化

むーしゆーおくしゆーじよう  
無數億衆生

りようにゆうおーぶつどう  
令入於仏道

にーらいむーりようこう  
爾來無量劫

いーどーしゆーじようこー  
為度衆生故

ほうべんげんねーほん  
方便現涅槃

にーじつふーめつどー  
而實不滅度

じようじゆうしーせつぽう  
常住此說法

がーじようじゆうおーしー  
我常住於此

いーしよーじんずうりき  
以諸神通力

りようてんどうしゆーじよう  
令顛倒衆生

すいごんにーふーけん  
雖近而不見

しゆーけんがーめつどー  
衆見我滅度

こうくーようしやーりー  
廣供養舍利

げんかいえーれんぼー  
咸皆懷戀慕

にーしようかつこうしん  
而生渴仰心

しゆーじようきーしんぶく  
衆生既信伏

しつじきいーにゆうなん  
質直意柔軟

いっしんよくけんぶつ  
一心欲見仏

ふーじーしゃくしんみよう  
不自惜身命

じーがーぎゆうしゆーそう  
時我及衆僧

ぐーしゆつりようじゆーせん  
俱出靈鷲山

がーじーごーししゆーじよう  
我時語衆生

じようざいしーふーめつ  
常在此不滅

いーほうべんりきこー  
以方便力故

げんぬーめつふーめつ  
現有滅不滅

よーこくうーししゆーじよう  
余國有衆生

くーぎようしんぎようしやー  
恭敬信樂者

我復於彼中

為説無上法

汝等不聞此

但謂我滅度

我見諸衆生

没在於苦海

故不為身現

令其生渴仰

因其心恋慕

乃出為説法

神通力如是

於阿僧祇劫

常在靈鷲山

及余諸住处

衆生見劫尽

大火所燒時

我此土安穩

天人常充滿

園林諸堂閣

種種宝莊嚴

宝樹多華果

衆生所遊樂

諸天擊天鼓

常作衆妓樂

雨曼陀羅華

散仏及大衆

我淨土不毀

而衆見燒尽

憂怖諸苦惱

如是悉充滿

是諸罪衆生

以惡業因縁

過阿僧祇劫

不聞三宝名

諸有修功德

柔和質直者

則皆見我身そくかいけんがーしん

在此而說法ざいしーにーせつぽう

或時為此衆わくじーいーしーしゆー

說仏壽無量せつぶつじゆーむーりよう

久乃見仏者くーないけんぶつしやー

為說仏難值いーせつつぶつなんちー

我智力如是がーちりきによーぜー

慧光照無量えーこうしょうむーりよう

壽命無數劫じゆーみようむーしゆーこう

久修業所得くーしゆーごうしよーとく

汝等有智者によーとーうーちーしやー

勿於此生疑もつとーしーしやうぎー

当断令永尽とうだんりようようじん

仏語實不虛ぶつごーじつふーこー

如医善方便によーいーぜんほうべん

為治狂子故いーじーおうしーこー

實在而言死じつざいにーごんしー

無能說虛妄むーのうせつこーもう

我亦為世父がーやくいーせーぶー

救諸苦患者ぐーしよーくーげんしやー

為凡夫顛倒いーぼんぶーてんどう

實在而言滅じつざいにーごんめつ

以常見我故いーじやうけんがーこー

而生憍恣心にーしやうきやうしーしん

放逸著五欲ほういつじやくごーよく

墮於惡道中だーおーあくどうちゆう

我常知衆生がーじやうちーしゆーじやう

行道不行道ぎやうどうふーぎやうどう

隨応所可度ずいおうしよーかーどー

為說種種法いーせつしゆーじゆーほう

每自作是念まいじーさーぜーねん

以何令衆生いーがーりようしゆーじやう

得入無上道とくにゆうむーじやうどう

速成就仏身そくじやうじゆーぶつしん

# 参同契さんどうかい

竺土大仙の心、東西密に相附す、人根に利鈍あり、

道に南北の祖なし

靈源明に皓潔たり、支派暗に流注す、事を執するも

元これ迷い、理に契うも亦悟にあらず

門門一切の境、回互と不回互と、回してさらに相渉

る、しからざれば位によって住す

色もと質像を珠にし声もと楽苦を異にす、暗は上中



の言ことに合かない、明めいは清濁せいだくの句くを分わかつ

四大しだいの性しょうおのずから復ふくす、子この其その母ははを得うるがごと

し、火ひは熱ねつし、風かぜは動揺どうよう、水みずは湿うるい地ちは堅固けんご、眼まなこは

色いろ、耳みみは音声おんじょう、鼻はなは香か、舌したは鹹酢かんそ、しかも一一いちいちの法ほう

において、根ねによって葉分布はぶんぷす、本末ほんまつすべからく宗しゅう

に歸きすべし、尊卑そんぴ其その語ごを用もちゆ

明中めいちゅうに当あたって暗あんあり、暗相あんそうをもつて遇あうことなかれ、

暗あん中に当あたって明めいあり、明相めいそうをもつて觀みることなかれ

明暗めいあんおのおの相対あいたいして、比ひするに前後ぜんごの歩あゆみのごとし、



万物おのずから功あり、当に用と処を言うべし、

事存すれば函蓋合し、理応ずれば箭鋒拄う

言を承てはすべからく宗を会すべし、みずから規矩

を立することなかれ、觸目道を会せずんば、足を運

ぶもいづくんぞ路を知らん、歩をすすむれば近遠に

あらず、迷て山河の固をへだつ、謹んで参玄の人に

もうす、光陰虚しく度ることなかれ

# 宝鏡三昧ほうきょうざんまい

如に是よの法ほう、仏祖密ぶつそみつに附ふす、汝なんじ今いまこれを得えたり、宣よろしく  
能よく保ほう護ごすべし、銀ぎん盃なんに雪ゆきを盛もり、明めい月げつに鷺ろを蔵かくす、  
類るいして齊ひとしからず、混こんずるときんば処ところを知る、意こころ言ことに在あら  
ざれば来らい機き亦またおもむく、動どうずれば窠かき白ゆうをなし、差たがええ顧こ  
佇ちよに落おつ、背はい触そくともに非ひなり、大だい火か聚じゆの如ごとし、但ただ文もん彩さい  
に形あらせば、即すなち染ぜん汚なに属ぞくす、夜やはん半し正よう明めい、天てん曉き不よう露ふろ、物もの  
のためのに則のりとなる、用もちいて諸しよ苦くをぬく、有う為いにあらず

といえども、是語なきにあらず、宝鏡にのぞんで、形  
影相い観るがごとし、汝これ渠にあらず、かれ正に是  
なんじ、世の嬰兒の五相完具するが如し、不去不来、  
不起不住、婆婆和和、有句無句、ついに物を得ず、語  
いまだ正しからざるがゆえに、重離六爻、篇正回互、  
畳んで三となり、変じ尽きて五となる、莖艸の味のご  
とく、金剛の杵のごとし、正中妙挾、敲唱雙びあぐ、  
宗に通じ途に通ず、挾帯挾路、錯然なるときんば吉な  
り、犯忤すべからず、天真にして妙なり、迷悟に属せ

ず、因縁時節、寂然として照著す、細には無間に入り、  
大には方所を絶す、毫忽の差、律呂に応ぜず、今頓漸  
あり、宗趣を立するによつて、宗趣わかる、即ち是れ  
規矩なり、宗通じ趣極るも、真常流注、外寂に内揺く  
は、繋げる駒、伏せる鼠、先聖これを悲しんで、法の  
檀度となる、其の顛倒に随つて、緇をもつて素となす、  
顛倒想滅すれば、冑心みずから許す、古轍に合わんと  
要せば、請う前古を觀ぜよ、仏道を成ずるになんなん  
として、十劫樹を觀ず、虎の欠たるがごとく、馬の鼻

の如し、下劣あるをもつて、宝几珍御、驚異あるをもつて、狸奴白牯、羿は巧力をもつて、射て百歩に中つ、箭鋒あい値う、巧力なんぞ貯らん、木人まさに歌い、石女たつて舞う、情識の到にあらず、むしろ思慮を容んや、臣は君に奉し、子は父に順ず、順ぜざれば孝にあらず、奉せざれば輔にあらず、潜行密用は、愚のごとく魯のごとし、只能く相続するを、主中の主と名く。

# 修証義しゆしょうぎ

## 第一章

## 総序そうじよ

生しょうを明あきらめ死しを明あきらむるは仏家ぶつけい一大事いちだいじの因縁いんねんなり、生死しょうじ  
の中になかに仏ほとけあれば生死しょうじなし、但ただ生死しょうじすなわち涅槃ねはんと心得こころえ  
て、生死しょうじとして厭いとべきもなく、涅槃ねはんとして欣ねごうべきも  
なし、是時このとき初めて生死しょうじを離はなるる分ぶんあり唯一ただいちだい大事だいじ因縁いんねんと  
究尽くうじんすべし。人身にんしん得ること難がたし、仏法ぶつぼう値おうこと希まれな  
り、今我等いまわれら宿善しゆくぜんの助たすくるに依よりて、已すでに受うけ難がたき人身にんしん

を受けたるのみに非ず、遇い難き仏法に値い奉れり、  
生死の中の善生、最勝の生なるべし、最勝の善身を徒  
らにして露命を無常の風に任すること勿れ。無常憑み  
難し、知らず露命いかなる道の草にか落ちん、身已に  
私に非ず、命は光陰に移されて暫も停め難し、紅顔い  
ずくへか去りにし、尋ねんとするに蹤跡なし。熟観ず  
る所に往事の再び逢うべからざる多し、無常忽ちにい  
たるときは国王大臣親昵従僕妻子珍宝たすくる無し、  
唯独黄泉に趣のみなり、己に随い行くは只是善悪業等

のみなり。今の世に因果を知らず、業報を明らめず、三世を知らず善悪を弁まえざる邪見の党侶には群すべからず、大凡因果の道理歴然として私なし、造悪の者は堕ち、修善の者は陞る、毫釐もたがわざるなり、若し因果亡虚しからんが如きは、諸仏の出世あるべからず、祖師の西来あるべからず。善悪の報に三時あり、ひとつにはじゅんげんほうじゅ、ふたつにはじゅんじしやうじゅ、みつにはじゅんごじじゅ、一者順現報受、二者順次生受、三者順後次受、これを三時という、仏祖の道を修習するには、其の最初よりこの三時の業報の理を効い験らむるなり、爾あらざれ



ば多くおお錯りあやまて邪見じゃけんに墮おつるなり、但ただ邪見じゃけんに墮おつるのみ  
に非あらず、悪道あくどうに墮おちて長時ちようじの苦くを受うく。当まさに知しるべし  
今生こんじようの我身わがみふた二つ無なし、三みつ無なし、徒いたずらに邪見じゃけんに墮おちて  
虚むなしく悪業あくごうを感得かんとくせん、惜おしからざらめや、悪あくを造つくりなが  
ら悪あくに非あらずと思おもい、悪あくの報ほうあるべからずと邪思じゃしゆい惟ただする  
に依よりて悪あくの報ほうを感得かんとくせざるには非あらず。

## 第二章 懺悔滅罪

仏祖ぶつそ憐あわれみの余あまり広こう大だいの慈じ門もんを開ひらき置おけり、是これ  
一切いっさい衆しゆ生じようを証しょう入にゆうせしめんが為ためなり、人にん天てん誰たれか入いらざら  
ん、彼かの三さん時じの悪あく業ごつ報ぼう必かなず感かんずべしと雖いえども、懺さん悔げする  
が如ごときは重おもきを転てんじて軽きよう受じゆせしむ、又また滅めつ罪ざい清しやう淨じようならし  
むるなり。然しかあれば誠じよう心しんを専もつらにして前ぜん仏ぶつに懺さん悔げすべ  
し、恚いん麼もするとき前ぜん仏ぶつ懺さん悔げの功く徳どく力りき我われを拯すくいて清しやう淨じような  
らしむ、此この功く徳どく能よく無む礙げの淨じよう信しん精しやう進じんを生しやう長ちやうせしむるな

り、淨信一現するとき自佗同く転ぜられるなり、其  
りやくあま 利益普ねく情非情に蒙ぶらしむ。其大旨は、願わくは  
われ 我れ設い過去の悪業多く重なりて障道の因縁ありと  
も、仏道に因りて得道せりし諸仏諸祖我れを愍みて  
業累を解脱せしめ、学道障り無からしめ、其功德法門  
普く無尽法界に充滿弥綸せらん、哀みを我に分布すべ  
し、仏祖の往昔は吾等なり、吾等が当来は仏祖ならん。  
我昔所造諸悪業、皆由無始貪瞋癡、従身口意之所生、  
一切我今皆懺悔、是の如く懺悔すれば必ず仏祖の冥助

あるなり、仏しんねんしんぎほつろびやくぶつ心念身儀発露白すべし、ほつろ発露の力ちから罪根ざいこんをして銷殞しょういんせしむるなり。

### 第三章 受戒入位じゆかいにゆうい

次つぎには深ふかく仏法僧ぶつぽうそうの三寶さんぼうを敬うやまい奉たてまつるべし、生しょうを易かえ身みを易かえても三寶さんぼうを供養くようし敬うやまい奉たてまつらんことを願ねごうべし、西天東土さいてんとうど仏祖ぶつそ正伝しょうでんする所ところは恭敬くぎよう仏法僧ぶつぽうそうなり。若もし薄福少徳はくふくしょうとくの衆生しゆじようは三寶さんぼうの名字みょうじ猶なお聞きき奉たてまつらざるなり、

何いかに況いわんや歸依きえし奉たてまつることを得えんや、徒いたずらに所逼しよひつを怖おそれ  
て山神鬼神等さんじんきじんとうに歸依きえし、或あるいは外道げどうの制多せいたに歸依きえするこ  
と勿なかれ、彼かれは其その歸依きえに因よりて衆苦しゆくを解脫げだつすること無な  
し、早はやく仏法僧ぶつぼうそうの三寶さんぼうに歸依きえし奉たてまつりて、衆苦しゆくを解脫げだつす  
るのみに非あらず菩提ぼだいを成就じょうじゅうすべし。其その歸依きえ三寶さんぼうとは正まさ  
に淨信じょうしんを專もつぱらにして、或あるいは如来にょらい現げん在ざい世せいもあれ、或あるいは  
如来滅後にょらいめつごにもあれ、合掌がっしょうし低頭ていずして口くちに唱となえて云いわく、  
南無歸依なむきえぶつ、南無歸依なむきえほう、南無歸依なむきえそう、佛ほとけは是これ大だい師し  
なるが故ゆえに歸依きえす、法ほうは良藥りょうやくなるが故ゆえに歸依きえす、僧そうは

勝友しょうゆうなるが故ゆえに歸依きえす、仏弟子ぶつでしとなることかなら必ず三歸さんきに  
依よる、何れいずの戒かいを受うくるもかなら必ず三歸さんきを受うけて其後そののち諸戒しよかい  
を受うくるなり、然しかあれば則すなわち三歸さんきに依よりて得戒とっかいある  
なり。此この歸依きえ仏法僧ぶつぼうそうの功德くどく、かなら必ず感応道交かんのうどうこうすると  
き成就じょうじゅうするなり、設たとい天上人間地獄鬼畜てんじょうにんげんじごくきちくなりと雖いえども、  
感応道交かんのうどうこうすればかなら必ず歸依きえし奉たてまつるなり、已すでに歸依きえし奉たてまつる  
が如ごときは生しょう生しやう世せ世せ在ざい在ざい処しよ処しよに増長ぞうちやうし、かなら必ず積功累徳しゃつくるいとくし、  
阿耨多羅三藐三菩提あのくたらさんみやくさんぼだいを成就じょうじゅうするなり、知しるべし三歸さんきの  
功德くどく其それ最尊最上さいそんさいじやうじんじん甚深不可思議ふかしぎなりということ、世尊せそん

すでに証明し、衆生当に信受すべし。次には

三聚淨戒を受け奉るべし、第一摂律儀戒、第二

摂善法戒、第三摂衆生戒なり、次には三聚淨戒

を受け奉るべし、第一不殺生戒、第二不偷盜戒、

第三不邪淫戒、第四不妄語戒、第五不酤酒戒、第六

不説過戒、第七不自讃毀佗戒、第八不慳法財戒、第九

不瞋恚戒、第十不謗三宝戒なり、上来三歸、三聚淨戒、

十重禁戒、是れ諸仏の受持したまう所なり。受戒する

が如きは、三世の諸仏の所証なる阿耨多羅三藐三菩提

金剛不壞の仏果を証するなり、誰の智人か欣求せざ

らん、世尊明らかに一切衆生の為に示します、

衆生仏戒を受くれば即ち諸仏の位に入っている、位大覚

に同うし已る、真に是れ諸仏の子なりと。諸仏の常に

此中に住持たる、各々の方面に知覚を遺さず、群生の

長えに此中に使用する、各々の知覚に方面露れず、

是時十方法界の土地草木牆壁瓦礫皆仏事を作すを以

て、其起す所の風水の利益に預る輩、皆甚妙不可思議

の仏化に冥資せられて親き悟りを顕わす、是を無為の



功德とす、是を無作の功德とす、是れ発菩提心なり。

#### 第四章 発願利生

菩提心を発すというは、己れ未だ度らざる前に一切衆生を度さんと発願し営むなり、設い在家にもあれ、設い出家にもあれ、或は天上にもあれ、或は人間にもあれ、苦にありというとも楽にありというとも、早く自未得度先度他の心を発すべし。其形陋しというとも、

此心このこころをおこ発せば、已おのれに一切衆生いっさいしゅじょうの導師どうしなり、設たい七歳しちさいの  
女流にょりゅうなりとも即すなわち四衆ししゅの導師どうしなり、衆生しゅじょうの慈父じふなり、  
男女なんによを論ろんずること勿なかれ、此これ仏道ぶつどう極妙ごくみょうの法則ほうそくなり、若も  
し菩提心ぼだいしんをおこ発して後のち、六趣ろくしゅ四生ししやうに輪轉りんてんすと雖いえども、其輪そのりん  
轉でんの因縁いんねん皆菩提ぎやうがんの行願ぎやうがんとなるなり、然しかあれば従来じゅうらいの  
光陰こういんは設たい空むなしく過すすといふとも、今生こんじやうの未いまだ過すぎざ  
る際あいだに急いそぎて発願ほつがんすべし、設たい仏ほとけに成なるべき功德くどくじゆく熟  
して円満えんまんすべしといふとも、尚なお廻めぐらして衆生しゅじやうの成仏じやうぶつ  
得道とくどうに回向えこうするなり、或あるいは無量劫むりやうごう行おこないて衆生しゅじやうを先さきに度わた

して自みずからは終ついに仏ほとけに成ならず、但ただし衆生しゅじょうを度わたし衆生しゅじょうを  
利益りやくするもあり。衆生しゅじょうを利益りやくすというは四枚しまいの般若はんんにゃあ  
り、一者ひとつにはふせ布施ふたつにはあいご、二者ふたつにはあいご愛語みつにはりぎよう、三者よつにはどうじ利行こ、四者よつにはどうじ同事こ、是れ  
即すなわち薩埵さつたの行願ぎようがんなり、其その布施ふせというは貪むさぼらざるなり、  
我物わがものに非あらざれども布施ふせを障さえざる道理どうりあり、其物そのものの輕かる  
きを嫌きらわず、其功そのこうの実じつなるべきなり、然しかあれば即すなわち  
一句いっくい一偈いちげの法ほうをも布施ふせすべし、此生しし佉生しうたしの善種ぜんしゅとなる、  
一錢いっせん一草いっそうの財たからをも布施ふせすべし、此世しし佉世しうたせの善根ぜんこんを兆きざす、  
法ほうも財たからなるべし、財さいも法たからなるべし、但ただ彼かれが報謝ほうしゃを貪むさぼら

ず、自みづからが力ちからを頒わかつなり、舟ふねを置おき橋はしを渡わたすも布施ふせ  
の檀だん度どなり、治ち生しょう産さん業ぎ固ぎょうより布ふ施せに非あらざること無し。  
愛あい語ごというは、衆しゅ生じょうをみるに、先まず慈じ愛あいの心こころをおこし、  
顧こ愛あいの言ごん語ごを施ほすなり、慈じ念ねん衆しゅ生じょう猶じゅう如にょ赤しゃく子くしの懐おもいを貯たくわ  
えて言ごん語ごするは愛あい語ごなり、徳とくあるは讚ほむべし、徳とくなき  
は憐あわれむべし、怨おん敵てきを降ごう伏ぶくし、君くん子しを和わ睦ぼくならしむるこ  
と愛あい語ごを根こん本ぽんとするなり、面むかいて愛あい語ごを聞きくは面おもてを喜よろこ  
ばしめ、心こころを楽たのしくす、面むかわずして愛あい語ごを聞きくは肝きまに  
銘めいじ魂たましいに銘めいず、愛あい語ご能よく廻かいてん天てんの力ちからあることを学まなすべき

なり。利行りぎようというは貴賤きせんの衆生しゆじように於おきて利益りやくの善巧ぜんぎようを廻めぐらすなり、窮きゆう龜きを見病みびよう雀じゃくを見みしとき、彼かれが報謝ほうしゃを求もとめず、唯ただ単ひとえに利行りぎように催もよおさるるなり、愚人ぐにん謂おもわくは利他りたを先さきとせば自みずからが利省りはぶかれぬべしと、爾しかには非あらざるなり。利行りぎようは一法いっぽうなり、普あまねく自佗じたを利りするなり。同事どうじというは不違ふいなり、自じにも不違ふいなり、佗たも不違ふいなり、譬たとえば人間にんげんの如来にょらいは人間にんげんに同どうぜるが如ごとし、佗たをして自じに同どうぜしめて後のちに自じをして佗たに同どうぜしむる道理どうりあるべし、自佗じたは時ときに随したがうて無窮むきゆうなり、海うみの水みずを辞じせざ

るは同事なり。是故に能く水聚りて海となるなり。

大凡菩提心の行願には是の如くの道理静かに思惟すべし、卒爾にすること勿れ、濟度摂受に一切衆生皆化を被ぶらん功德を礼拝恭敬すべし。

## 第五章 行持報恩

此發菩提心、多くは南閻浮の人身に發心すべきなり、今是の如くの因縁あり、願生此娑婆国土し来れり、見

釈迦牟尼仏を喜ばざらんや。静かに憶うべし、正法世  
に流布せざらん時は、身命を正法の為に抛捨せんこと  
を願うとも値うべからず、正法に逢う今日の吾等を願  
うべし、見ずや、仏の言わく、無上菩提を演説する師  
に値わんには、種姓を観ずること莫れ、容顔を見る  
こと莫れ、非を嫌うこと莫れ、行を考うること莫れ、  
但般若を尊重するが故に、日日三時に礼拝し、恭敬し  
て、更に患悩の心を生ぜしむること莫れと。今の見仏  
聞法は仏祖面面の行持より来れる慈恩なり、仏祖若し

単伝たんでんせずば、奈何いかにしてか今日こんにちに至いたらん、一句いっくの

恩尚おんなお報謝ほうしゃすべし、一法いっぼうの恩尚おんなお報謝ほうしゃすべし、況いわんや

正法しょうぼう眼蔵げんぞう無上むじょう大法だいほうの大恩だいおんこれを報謝ほうしゃせざらんや、病雀びょうじゃく

尚なお恩おんを忘わすれず三府さんぷの環かん能よく報謝ほうしゃあり、窮きゆう龜うき尚なお恩おんを

忘わすれず、余不よふの印いん能よく報謝ほうしゃあり、畜類ちくるい尚なお恩おんを報ほうず、

人類じんるい争いかでか恩おんを知らざらん。其報謝そのほうしゃは余外よげの法ほうは中あたるべ

からず、唯当ただまさに日日にちにちの行持ぎょうじ、其報謝そのほうしゃの正道しょうどうなるべし、

謂いわゆるの道理どうりは日日にちにちの生命せいめいを等閑なおざりにせず、私わたくしに費ついやさざ

らんと行持ぎょうじするなり。光陰こういんは矢やよりも迅すみかなり、身命しんめい



は露つゆよりも脆もろし、何いずれの善巧ぜんぎょう方便ほうべんありてか過すぎにし  
一いち日を復ふたび還かえし得えたる、徒いたずらに百歳ひゃくさい生いけらんは恨うらむべ  
き日月じつげつなり、悲かなむべき形骸けいがいなり、設たとい百歳ひゃくさいの日月じつげつは  
声色しょうしきの奴婢ぬびと馳走ちそうすとも、其その中なか一いち日にちの行持ぎょうじを行取ぎょうしゆせば  
一いっ生しょうの百歳ひゃくさいを行取ぎょうしゆするのみに非あらず、百歳ひゃくさいの他生たしょうをも  
度取どしゆすべきなり、此この一いち日にちの身命しんめいは尊とうとぶべき身命しんめいなり、  
貴とうとぶべき形骸けいがいなり、此この行持ぎょうじあらん身心しんじん自みからみずも愛あいすべ  
し、自みからみずも敬うやまへし、我われ等らが行持ぎょうじに依よりて諸仏しよぶつの  
行持ぎょうじ見成けんじやうし、諸仏しよぶつの大道だいどう通達つうだつするなり、然しかあれば即すなち

いちにちの行持是れ諸仏の種子なり、諸仏の行持なり。

謂ゆる諸仏とは釈迦牟尼仏なり、釈迦牟尼仏是れ

即心是仏なり、過去現在未来の諸仏、共に仏と成る

時は必ず釈迦牟尼仏と成るなり、是れ即心是仏なり、

即心是仏というは誰というぞと審細に参究すべし、正

に仏恩を報ずるにてあらん。

# 普回向ふえこう

願ねがわくは此この功徳くどくを以もつて普あまねく一切いっさいに及およぼし、我われら等

と衆生しゅじょうと皆共みなともに仏道ぶつどうを成じょうぜんことを。

十方三世一切仏 諸尊菩薩摩訶薩 摩訶般若波羅蜜

令和五年八月二六日発行

曹洞宗 蟠龍山 芳全寺

住所 栃木県真岡市久下田八〇一

電話 〇二八五―七四―〇一三四

FAX 〇二八五―七四―四二七一

<https://sendan-kg.jp>